

## さらなる「選ばれるまち」を目指して ～60万都市「中核市川口」～

### 1. はじめに

本市は、荒川を挟んで首都東京に隣接し、江戸時代から続く伝統的な鋳物産業、植木を中心とする花きなどの緑化産業をはじめ、活気あふれる「産業のまち」として発展してきました。

埼玉県の南の玄関口として、都心から10～20km圏内に位置しており、道路や鉄道の交通網の発達により、経済活動や市民生活の面で利便性の高い立地環境となっています。平成29年12月には、人口60万人を達成し、政令指定都市を除けば全国で3番目の人口を有する都市として成長を続けています。

こうした中、平成30年は本市にとって記念すべき節目の年となります。4月には中核市に移行するとともに、本市の3大プロジェクトとして位置づけている川口市立高等学校の開校、市内初の火葬施設の開設、そして災害に強い新庁舎の建設が着手されるなど、新しい川口のまちづくりを着実に進めています。

### 2. 3校を再編・統合した新「川口市立高等学校」の開校

本市には、これまで川口高等学校、県陽高等学校、川口総合高等学校の市立の高校が3校ありましたが、少子化の影響による高校入学人口の減少、老朽化した施設・設備の更新などが課題となっていました。

これらの問題を解決するため、平成24年3月に3校を再編・統合し、新たに1校を設置するとした「新校基本計画」を策定しました。

平成27年10月から川口総合高等学校の敷地に第1期工事を始め、平成29年12月に四季を感じる心地よい空間を有する校舎棟が完成し、平成30年4月「川口市立高等学校」が開校しました。

現在、第2期工事に着手し、屋内運動施設としての2つのアリーナ棟建設や400mトラックを備

えるグラウンド等の周辺整備を進めるとともに、川口高等学校跡地を活用した野球練習場や既設の体育館利用などを盛り込んだ第2校地の整備に着手しています。

川口市立高等学校は、「21世紀型能力の育成」「グローバル教育の推進」「大学や研究機関との連携」「最新の施設・設備」などにより、新しい学びを実現する環境を整備することで、我が国をリードし未来を創造していくことができる人材の育成に取り組んでいきます。



写真-1 新校校舎棟

### 3. 市内初の火葬施設「川口市めぐりの森」の開設

本市は、これまで市内に火葬施設を有していませんでしたが、市民の積年の願いでありました初の火葬施設「川口市めぐりの森」が平成30年4月3日から稼動しました。「水と緑に囲まれた周辺環境と調和した火葬施設」という整備方針のもと、世界的に著名な建築家である伊東豊雄氏に設計を依頼し、できる限り高さを抑えた印象的な屋根で囲まれた建物が、隣接する池と調和し、落ち着いた佇まいを見せています。

また、一体的に整備を進めてきた赤山歴史自然公園（イイナパーク川口）も同日に一部供用開始したところであり、公園内には、子ども向け大型遊具や歴史自然資料館、地域物産館といった施設を整備しました。今後は、トンボやカブトムシなどが生息できる雑木林や池を整えて、子どもたちが生き物を観察できる環境づくりを行っていき

川口市長 **おくのき のぶお**  
**奥ノ木 信夫**



いと考えています。

さらには、隣接する首都高速道路のパーキングエリアから高速道路を降りずに公園や地域を散策することができる首都高速道路初のハイウェイオアシスを計画しており、訪れたい魅力ある場所となるよう整備してまいります。

これらの施設の相乗効果により、市民はもとより、首都圏からの広域的な来訪者を呼び込むことで本市の新たな賑わいの創出の拠点となることを期待しています。



写真-2 川口めぐりの森



図-1 イイナパーク川口

#### 4. 川口の「都市力」を高める庁舎建設

現在の市本庁舎は、竣工後約60年が経過し、その後の増築部分を含めても45年以上が経過し老朽化が進んでいます。大規模災害の発生時には、防災拠点施設となる必要があり、また、耐震性の不足、バリアフリーへの対応など、設備、機能等の様々な課題に直面しています。

さらに、建物の狭あい化が進むとともに、本市の庁舎機能は本庁舎、第2庁舎、分庁舎、鳩ヶ谷

庁舎などに分散しており、市民サービスの向上や業務の効率化の観点から、利用しやすい庁舎が求められています。

こうしたことから、周辺環境との調和、市民の利便性、防災・環境対策などに配慮し、様々な機能が集約した庁舎として整備しているところであります。

建設状況につきましては、平成29年2月公表の基本設計を踏まえ、新庁舎第1期棟建設工事の実施設設計が完了、平成30年1月に工事に着手し、平成32年3月の完成に向け工事を進めているところであります。

引き続き早い段階で、駐車場棟、第2期棟の建設にも着手し、「災害に強い庁舎」「環境にやさしい庁舎」「だれもが利用しやすい庁舎」の実現に向け、着実に事業を進めてまいります。



図-2 第1期新庁舎完成図

#### 5. おわりに

平成30年2月の市長選挙におきまして、多くの市民の皆様からの負託を受け2期目の市政の舵取りをさせていただくことになりました。これからの4年間は、中核市を軌道に乗せ、3大プロジェクトを開花させる本市の将来にとって大切な期間となります。引き続き、気を緩めることなく、スピード感を持って、「安全・安心なまち」「住みやすく便利なまち」「魅力あるまち」にして、さらなる「選ばれるまち川口」を目指して、地域の特性と60万市民の目線に合った市政運営に取り組んでまいります。